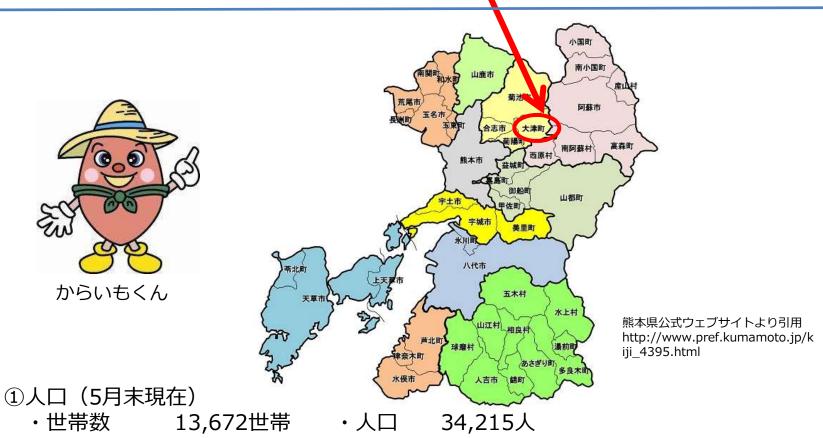
熊本地震災害派遣報告

平成28年7月11日

熊本県大津町(おおづまち)について



②地勢

- ・面積 99.10km
- ・熊本駅から電車で約40分、空港から車で約10分、高速道路ICから約20分で、 交通の便は比較的良い。

③産業

- ・大規模な圃場が整備され、さつまいも(唐芋)の生産量が熊本県一位
- ・本田技研工業のバイク工場が町内にある。
- ・阿蘇山の玄関口であるため、国道沿いに店舗も多い

平成28年熊本地震の状況について

・平成28年4月14日午後9時26分 前震 マグニチュード6.5

最大震度7 (熊本県益城町)

※大津町 震度5強

・平成28年4月16日午前1時25分 本震 マグニチュード7.3 (阪神淡路大震災と同規模)

最大震度7(熊本県益城町、西原村)

※大津町 震度6強

●大津町の被害状況

- ・幸いにも地震による死者はいなかった。
- ・最大、指定避難所・自主避難所合わせて73カ所13000人を超える避難者が集まる。
- ・電気は3日程度、水道は3~7日程度、復旧までかかった。(役場職員の方からの聞き取り)

●大津町役場の被害状況

- ・役場庁舎は築48年で耐震補強をしていなかった。(建替費用の積立を始めたところだった。)
- ・庁舎内部にヒビが入り使用不能(特に、旧館と新館のつなぎ目部分が大規模に損傷)
- ・窓口業務は、役場に隣接している交流施設(大規模な公民館のような施設)、災害対策本部等の管理事務 は、別棟の電算棟にて事務を行っている。
- ・今月、民間事業者が新築したプレハブの仮設庁舎を賃貸借し、入居予定。(年間賃貸借料2億円)

業務概要

①派遣期間

- ・第12クール 平成28年6月26日(日)~7月2日(土) 政策推進課から1名参加
- ・第13クール 平成28年7月 2日(日)~7月8日(金) 地域福祉課から1名参加

②派遣メンバー

大阪府 6名(連絡調整: 2名、家屋調査: 3名、小学校派遣養護教諭: 1名)

大阪府内市町村 7名(家屋調査)

③業務概要

- ・り災証明の発行申請のあった住宅の被害状況の調査
- ・大津町職員1名(各部から動員)、応援職員2名の3名1班 (被害判定係、図面係、写真係)
- ·1日7~10班体制
- ・調査件数:一次調査班 20件/日、二次調査班 2~3件/日



拠点の浄化センター(下水道処理施設)

家屋調査の様子(1)

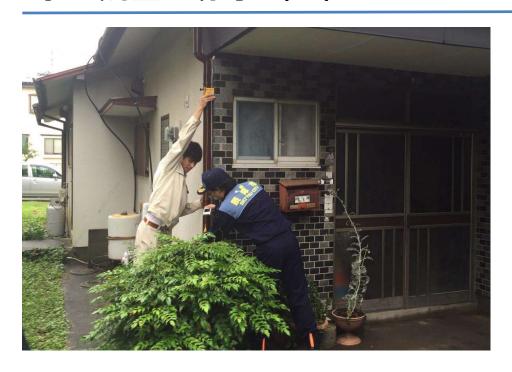


①調査する家屋の遠景の写真を撮ります。



②図面がない場合は、家屋の 外周を計測し、図面を作成 するところから始めます。

家屋調査の様子(2)



③下げ振りと呼ばれる紐のつい た重りをたらして、家の四隅 の傾きを計測します。

④家の外壁、基礎のひび割れ、損傷の場所、程度を図面に記載し、写真を 撮り、記録します。



家屋調査の様子(3)



⑤家屋内部の各部屋を計測し、 間取り図を作成します。

⑥天井、内壁、床の損傷の程度と場所 ・ を図面に記載し、写真を撮ります。



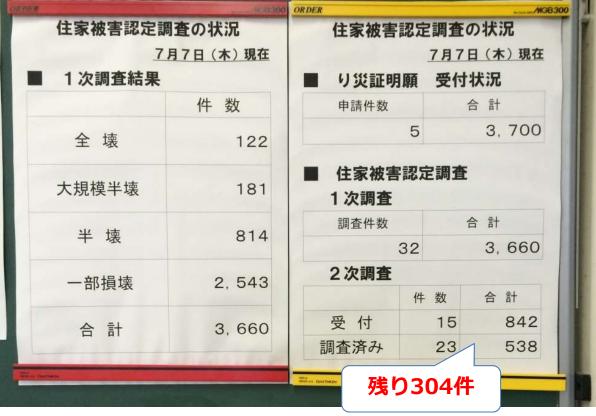


家屋調査の様子(4)



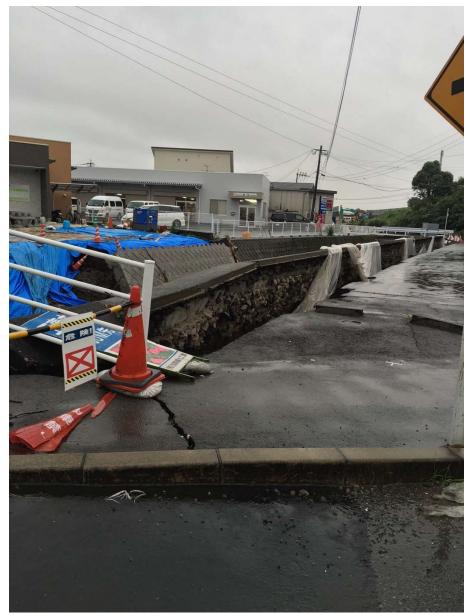
⑦事務所に戻り、記録した図面 をもとに、家の損傷具合を点 数化し、全壊、半壊などの判 定をします。

大津町の住家被害認定状況 (7月7日現在)



益城町の様子





熊本城の様子





感想

- 多くの住宅の屋根に、ブルーシートが掛けられ、地震の大きさを物語っていた。
- ・住民は、生活再建の第1歩として、り災証明書に対する ニーズが非常に高かった。(り災証明がないと、仮設住宅 の申込みや、各種支援の申込みができない。また、証明が 発行されるまでは家の修理も自由にできない。)
- ・役場職員は、日常業務に加え、震災に関する業務を行っており、休みを返上して出勤していた。支援はまだ必要ではないかと感じた。(家屋調査は土日も行っている。)
- 1週間の短い間であったが、災害が発生した現場に身を置くことで、災害発生時における行政の動きを感じる事ができた。